



JFE

JFEグループ
インベスターズ・ミーティング

2020年8月12日

JFEホールディングス株式会社



JFE

目次

- **JFEグループ 2020年度 第1四半期決算**
- **JFEグループ 2020年度 業績見通し**
- **配当について**
- **セグメント別 業績の状況**
 - **JFEスチール**
 - **JFEエンジニアリング**
 - **JFE商事**
- **ESG課題への取り組み**

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されることはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JFEグループ
2020年度 第1四半期決算



2020年度 第1四半期決算概要

JFE

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国内外の経済環境が急速に悪化し、売上収益は7,439億円（前年同期比▲1,835億円）、事業利益は▲472億円（同▲779億円）、親会社の所有者に帰属する当期利益は▲391億円（同▲588億円）となった

(億円)	2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	増減
売上収益	9,274	7,439	▲1,835
事業利益	307	▲472	▲779
金融損益	▲32	▲32	0
セグメント利益	275	▲504	▲779
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	275	▲504	▲779
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲77	112	189
親会社の所有者に帰属する当期利益	197	▲391	▲588

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの



2020年度 第1四半期決算概要 セグメント別

JFE

(億円)		2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	増減
売上収益				
鉄鋼事業		6,666	5,087	▲1,579
エンジニアリング事業		1,132	1,050	▲82
商社事業		2,866	2,380	▲486
調整額		▲1,392	▲1,079	313
合計		9,274	7,439	▲1,835
事業利益	(A)	307	▲472	▲779
金融損益	(B)	▲32	▲32	0
セグメント利益				
鉄鋼事業		145	▲578	▲723
エンジニアリング事業		49	15	▲34
商社事業		79	44	▲35
調整額		0	13	13
合計	(A+B)	275	▲504	▲779

JFEグループ 2020年度 業績見通し



2020年度 業績見通し

JFE

- ・需要業界の活動水準の低下による鋼材需要の減少等により、**通期の事業利益は▲1,000億円**の見通し
- ・**上期は**、鉄鋼事業の数量減やグループ会社収益の減少等を主因に、**事業利益は▲1,250億円の赤字**
- ・**下期は**、鉄鋼事業においては自動車分野を中心とした**需要業界の活動水準の回復**に加えて、**収益改善に向けた取り組みの着実な実行**等により赤字を解消、エンジニアリング事業、商社事業の寄与もあり、**事業利益は250億円の黒字**を見込む

(億円)	2019年度実績		2020年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,712	37,297	14,600	31,700	▲4,112	▲5,597
事業利益	490	378	▲1,250	▲1,000	▲1,740	▲1,378
金融損益	▲63	▲125	▲70	▲150	▲7	▲25
セグメント利益	427	253	▲1,320	▲1,150	▲1,747	▲1,403
個別開示項目	-	▲2,388	-	-	0	2,388
税引前利益	427	▲2,134	▲1,320	▲1,150	▲1,747	984
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲108	157	220	150	328	▲7
親会社の所有者に帰属する 当期利益	319	▲1,977	▲1,100	▲1,000	▲1,419	977



2020年度 業績見通し セグメント別

JFE

(億円)	2019年度実績		2020年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	13,531	26,813	10,100	22,400	▲3,431	▲4,413
エンジニアリング事業	2,389	5,122	2,150	4,900	▲239	▲222
商社事業	5,575	10,841	4,300	9,000	▲1,275	▲1,841
調整額	▲2,783	▲5,480	▲1,950	▲4,600	833	880
合計	18,712	37,297	14,600	31,700	▲4,112	▲5,597
事業利益 (A)	490	378	▲1,250	▲1,000	▲1,740	▲1,378
金融損益 (B)	▲63	▲125	▲70	▲150	▲7	▲25
セグメント利益						
鉄鋼事業	177	▲87	▲1,450	▲1,450	▲1,627	▲1,363
エンジニアリング事業	119	231	60	210	▲59	▲21
商社事業	146	270	55	120	▲91	▲150
調整額	▲15	▲159	15	▲30	30	129
合計 (A+B)	427	253	▲1,320	▲1,150	▲1,747	▲1,403



足下の事業環境を受けた当社の対応

JFE

- JFEグループ発足以来の難局を乗り切るため、緊急対策の具体化と実行を推進
- 以下の諸施策をグループ一丸となり確実に実行していく

当面の操業方針（鉄鋼事業）

1. 生産最適化によるコストミニマム操業を実施

- ：西日本製鉄所 倉敷地区 第4高炉の休止（改修）
西日本製鉄所 福山地区 第4高炉は6月以降バンキング中

2. 一時休業の継続：本年5月より全社(HD/ST)で実施している一時休業を当面継続

コスト削減・キャッシュフロー対策（JFEグループ）の進捗

1. 鉄鋼事業 コスト削減

- ： 1,000億円（20年度） を減産影響込みで積み上げ ……詳細 19頁

2. 鉄鋼事業 国内設備投資圧縮

- ： 19年11月公表1,000億円 → 今回1,300億円（19-20年度累計）

3. JFEグループ 資産圧縮（在庫圧縮・政策保有株式売却等）

- ： 19年11月公表1,500億円 → 今回1,700億円（19-20年度累計）

（詳細次頁）



JFE

キャッシュフロー対策の進捗

鉄鋼事業の国内設備投資圧縮

19年11月公表 1,000億円 ⇒ **今回 1,300億円**

必要な案件の厳選、徹底的な低廉化により更なる投資圧縮を実施

- ◆ 安全・環境・防災、製造基盤整備、高炉安定化、IT・DS等の必要な投資は着実に実行

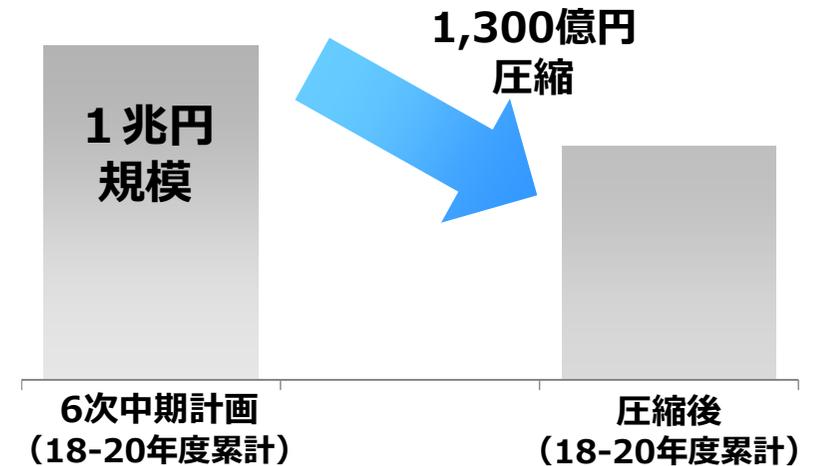
JFEグループ 資産圧縮

19年11月公表 1,500億円 ⇒ **今回 1,700億円**

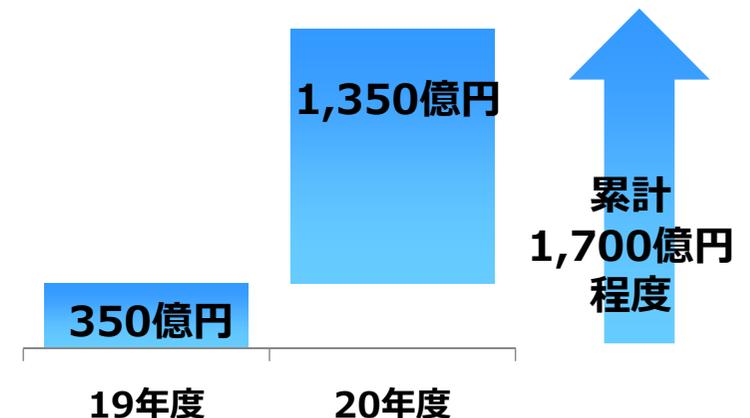
あらゆる資産を対象とした売却の検討・実施や、在庫基準の見直し等を実行

- ◆ 政策保有株式：原則保有しない方針のもと売却を順次推進
- ◆ 主原料在庫：過去最低レベルまで在庫率を削減
- ◆ 製品在庫 圧延サイクル、デリバリーの最適化等の対策を実施

国内設備投資（意思決定ベース）



資産圧縮



配当について

配当について

- 当期の中間配当については、
現下の損益状況を踏まえ実施しない方針と
させていただきます。
- 期末の配当については、
今後、業績動向を見極めつつ検討することとし
ており、未定としております。

JFEスチール
2020年度 第1四半期決算
および業績見通し



2020年度 第1四半期決算

JFE

	単位	2019年度					2020年度
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月
売上収益	億円	6,666	6,865	6,527	6,755	26,813	5,087
セグメント利益	億円	145	32	▲63	▲201	▲87	▲578
棚卸資産評価差除き*	億円	225	▲8	87	▲91	213	▲348
単独粗鋼生産量	万t	700	679	624	670	2,673	479
連結粗鋼生産量	万t	736	713	659	700	2,809	509
単独鋼材出荷量	万t	585	594	559	609	2,347	459
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	39.9	42.1	39.7	44.4	41.5	44.2
鋼材平均価格	千円/t	80.4	79.4	79.6	76.1	78.8	75.3
為替レート	円/ドル	110.7	107.6	108.8	109.4	109.1	107.7
期末為替レート	円/ドル	107.8	107.9	109.6	108.8	108.8	107.7

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

セグメント利益 ▲723億円 内訳

JFEスチール	2019年度					2020年度	増減 対前年同期
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	
セグメント利益	145	32	▲63	▲201	▲87	▲578	▲723

1. コスト

+130

- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
- ・ 設備投資効果発現 等

2. 数量・構成

▲490

- ・ 需要低下に伴う数量減
(粗鋼量700⇒479万t ▲221万t)

3. 販価・原料

+10

- (≒鋼材トンあたり：+200円)
 輸出を中心に販売価格は悪化するも、原料炭価格下落により若干の
 スプレッド改善。

4. 棚卸資産評価差等

▲150

- ・ 棚卸資産評価差▲150 (▲60→▲210)
- ・ 原料キャリーオーバー影響▲10 (+10→±0)
- ・ 為替換算差+10(▲30→▲20)

5. その他

▲223

- ・ 国内外グループ会社収益の悪化
- ・ 資産廃売却損 等



現時点の事業環境

JFE

国内

緊急事態宣言発令に伴い経済活動が停滞し、自動車分野を中心に、**4-6月がボトム**となり、普通鋼鋼材消費見通しは**前年同期比▲26%減少**

輸出

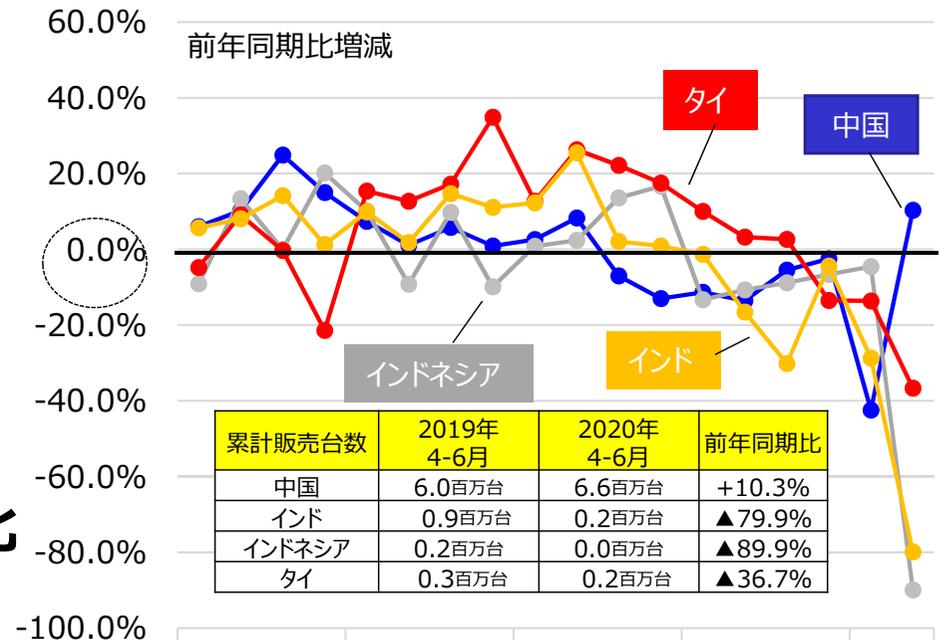
4-6月の自動車販売台数は、各国の経済活動停滞に伴い、**中国以外の地域では大幅に減少**
中国については1-3月をボトムに**経済が回復**

(百万 t)

【国内普通鋼鋼材消費見通し】



【各国自動車販売台数推移】



2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1-3月	1-3月	1-3月	1-3月	1-3月
4-6月	4-6月	4-6月	4-6月	4-6月
7-9月	7-9月	7-9月	7-9月	7-9月
10-12月	10-12月	10-12月	10-12月	10-12月



今後の事業環境見通し

JFE

- 造船分野などでは回復に時間を要する見通しではあるが、主要な需要分野である自動車を中心に一部の分野では下期にかけて活動水準の回復を想定
- 20年度下期は上期に対し+20%程度の活動水準の回復を見込む（20年度普通鋼鋼材内需 前年比▲20%程度を想定）

分野		見通し概況	20上 (対19下)	20下 (対20上)
国内	自動車	<ul style="list-style-type: none"> 国内生産は20-1Qの大幅な落ち込みをボトムに、以降は<u>段階的な回復</u>を見込む 下期は対上期比3割程度の需要回復を見込む 		
	造船	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での商談停滞に伴う受注減少により、手持ち工事量が減少しており回復に時間を要する。下期は上期よりも<u>活動水準低下</u>の見通し 		
	土木	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き高水準の公共事業関係予算確保しており、他分野の落ち込みに対しては<u>相対的に底堅い</u>と想定。下期以降の季節要因含め回復の見込み 		
	建築	<ul style="list-style-type: none"> 再開発案件は堅調に推移する見込みも中小物件は下期も低調が継続し、<u>年度内での本格回復には至らない</u>と想定 		
輸出	自動車	<ul style="list-style-type: none"> <u>中国での自動車販売の回復</u>に加え、<u>欧米の自動車販売も底打ち</u>の動きがみられるなど、一部に明るい兆しあり 		
	薄板	<ul style="list-style-type: none"> 4月以降中国の旺盛な需要がインド材の受け皿となり、<u>東南アジア市況の下支え</u>要因となっている コロナ感染が収束しつつある地域において<u>鋼材市況が反転上昇</u>しつつある 		
	造船	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での商談停滞に伴う受注減少により、手持ち工事量が減少しており回復に時間を要する。下期は上期よりも<u>活動水準低下</u>の見通し 		
	エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> WTI原油価格は<u>4月を底に反転回復</u>も、依然稼働数減は継続し、需要回復には時間を要する見込み 		



業績見通しの前提

1. 粗鋼生産量見通し

		粗鋼量	考え方
	1Q (実績)	479万t	コロナ影響による低需要に見合った操業を実施 (4/25~倉敷第4高炉休止、6/20~福山第4高炉をバンキング)
	2Q	520万t 程度	1Qを底に自動車などの一部分野で回復が見られるも、 前年度比▲25%程度の操業を継続
	上期	1,000万t 程度	
	下期	1,200万t 程度	国内外の自動車需要の回復を中心に粗鋼量増
20年度		2,200万t 程度	対19年度▲20%程度を見込む

2. メタルスプレッド

- アジアの鋼材市況・メタルスプレッドは底打ちし、足下は反転の動きがみられる
- 鉄鉱石は、旺盛な中国需要により高止まりが継続する見込み
- 原料炭は、今後、新型コロナ影響からの世界経済回復を受け、インドなどのスポット購入増に伴い価格上昇を想定
- 輸出黒皮スプレッドは20年度上期後半にかけて回復し、下期は上期比でほぼ横ばいを想定



収益改善に向けた取り組み状況

➤ コスト削減

減産による変動費のコストアップ込みで1,000億円(20年度)を積み上げ

- **固定費削減**：補修費（トラブル防止は確実に実行、案件厳選し削減）
労務費（一時休業の実施、時間外削減等）、経費削減他

- **変動費**：19年度の設備投資効果のフル発現
最適生産体制の推進により減産デメリットを最小化

➤ 鋼材価格の適正化に向けた取り組み

開発・商品・サービスを含めトータルで提供している**付加価値に対する適切な価格水準の実現**にむけお客様への丁寧なご説明を継続

➤ 21年度の鉄鋼事業の黒字化

- 20年度下期の生産レベルを前提に、**設備投資効果をはじめとしたコスト削減を着実に実行し黒字化を達成**する

➤ 構造改革の着実な実施

- 国内最適生産体制に向けた**構造改革の前倒しや効果の早期発現を検討**



JFEスチール 2020年度 業績見通し

JFE

	単位	2019年度	2020年度				
		年間	4-6月	7-9月	上期	下期	年間
売上収益	億円	26,813	5,087	5,013	10,100	12,300	22,400
セグメント利益	億円	▲87	▲578	▲872	▲1,450	0	▲1,450
棚卸資産評価差等除き*	億円	213	▲348	▲472	▲820	▲190	▲1,010
単独粗鋼生産量	万t	2,673	479	520 _{程度}	1,000 _{程度}	1,200 _{程度}	2,200 _{程度}
連結粗鋼生産量	万t	2,809	509	550 _{程度}	1,060 _{程度}		
単独鋼材出荷量	万t	2,347	459	460 _{程度}	920 _{程度}		
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.5	44.2	42 _{程度}	43 _{程度}		
鋼材平均価格	千円/t	78.8	75.3	71 _{程度}	73 _{程度}		
為替レート	円/ドル	109.1	107.7	108 _{程度}	108 _{程度}		

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益



2020年度 セグメント利益 対前年度 ▲1,363億円内訳

JFE

1,000億円のコスト削減達成を見込むが、数量減影響に加え、新型コロナウイルスの影響による国内外のグループ会社収益の悪化があり、鉄鋼事業セグメント利益は対前年度で大幅な悪化を見込む

JFEスチール	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減 (億円) 対前年度
セグメント利益	▲87	▲1,450	▲1,363

1. コスト	+1,000	<ul style="list-style-type: none"> 補修費・労務費を中心とした固定費削減 設備投資効果発現 等
2. 数量・構成	▲1,190	<ul style="list-style-type: none"> 需要低下に伴う数量減 (粗鋼量 2,673⇒2,200万t ▲473万t) 国内・輸出品種構成悪化
3. 販価・原料	▲230	<ul style="list-style-type: none"> (≒鋼材トンあたり：▲1,100円) 国内外市況悪化によりスプレッド縮小
4. 棚卸資産評価差等	▲140	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差▲250 (▲220→▲470) 原料キャリーオーバー影響+120 (▲70→+50) 為替換算差▲10(▲10→▲20)
5. その他	▲803	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の悪化▲700億円 等



2020年度上期⇒下期 セグメント利益 +1,450億円内訳

JFE

下期にかけて粗鋼生産量が増加する見込みであることに加え、上期に発現する棚卸資産評価損の解消、国内外グループ会社収益の回復等もあり、下期損益は対上期で大幅回復し、赤字を解消の見込み

JFEスチール	2020年度 見通し			増減(億円) 2020上→下
	上期	下期	年間	
セグメント利益	▲1,450	0	▲1,450	+1,450

1. コスト	+150	<ul style="list-style-type: none"> 減産コストアップの縮小 補修費・労務費を中心とした固定費削減 等
2. 数量・構成	+400	<ul style="list-style-type: none"> 下期にかけて自動車分野を中心に活動水準の回復を見込む (粗鋼量 1,000⇒1,200万t +200万t)
3. 販価・原料	▲50	(≒鋼材トンあたり：▲500円) <ul style="list-style-type: none"> 鉄鉱石高止まり、経済活動水準回復に伴う、原料炭市況上昇想定
4. 棚卸資産評価差等	+820	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差+630 (▲550→+80) 原料キャリアオーバー影響+170 (▲60→+110) 為替換算差+20(▲20→±0)
5. その他	+130	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の改善 等

JFEエンジニアリング 2020年度 業績見通し



2020年度 業績見通し

JFE

足下の事業環境

- **国内の環境関連分野**、および鋼構造関連を中心とした**社会インフラ分野は引き続き堅調**
- 新型コロナウイルスの影響により、一部の海外案件でプロジェクト中断や工期変更等が発生。今後、国内民間・海外の新規プロジェクトで計画中断や発注延期の可能性はあるものの、影響は限定的と想定
- コロナ状況下においても**セグメント利益は200億円を上回る見通し**。**安定的な収益を確保を継続**

業績見通し

(億円)	19年度実績		20年度見通し		増減 (対前年同期)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	1,895	4,130	3,200	5,000	1,305	870
売上収益	2,389	5,122	2,150	4,900	▲239	▲222
セグメント利益	119	231	60	210	▲59	▲21

【上期】	・受注高	+1,305	環境分野の大型案件の出件タイミング差
	・売上収益	▲239	新型コロナ影響および工事量減により減少
	・セグメント利益	▲59	売上収益減および工事構成差により減少
【年間】	・受注高	+870	環境、社会インフラ分野等の公共工事を中心に大型案件の出件増
	・売上収益	▲222	新型コロナ影響および工事量減により減少
	・セグメント利益	▲21	売上収益減により減少

JFE商事 2020年度 業績見通し



2020年度 業績見通し

JFE

足下の事業環境

- 新型コロナウイルス感染拡大により世界経済は急速に減速、国内経済活動も停滞
- **国内は自動車生産台数に回復の兆し**が見えるも、**産機や建設等の需要が弱含み**にて推移
- 国内を中心にお客様の**在庫調整**が本格化し**荷動きが悪化**
- **海外においても経済回復が遅れ**、上期の鋼材需要は大きく低迷を見込む

⇒ 足下の事業環境をうけ、**資産圧縮や経費削減、投融資の絞り込み等の収益・キャッシュフロー創出対策を確実に実施**する

業績見通し

(億円)	19年度実績		20年度見通し		増減 (対前年同期)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	5,575	10,841	4,300	9,000	▲1,275	▲1,841
セグメント利益	146	270	55	120	▲91	▲150

【上期見通し】

新型コロナウイルスの影響による需要の大幅な落ち込みにより、販売数量が減少し国内外で減収減益の見通し

【年間見通し】

下期以降は世界経済も徐々に正常を取り戻し、緩やかに需要は回復すると想定しているが、年間を通じた世界的な経済停滞の影響により販売数量が減少し、前年度比減収減益の見通し

ESG課題への取り組み



JFE

世界の代表的ESG投資指数の構成銘柄に選定



ESG投資の代表的指数「FTSE4Good Index Series」* 「FTSE Blossom Japan Index」**の構成銘柄に初選定

2020年7月8日 リリース



FTSE4Good

*「FTSE4Good Index Series」

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

ロンドン証券取引所の子会社であるFTSE Russellが開発し、環境、社会、ガバナンスについて優れた対応を行っている企業を選定。サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用。



FTSE Blossom
Japan

**「FTSE Blossom Japan Index」

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

FTSE Russellが作成した、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。

持続的な成長を支える企業体質強化に向け、気候変動・安全・コンプライアンス等の
ESG課題への継続的な取り組みを推進し、持続可能な社会の発展に貢献



JFE

脱炭素を促進するソリューションの提供（再生可能エネルギー）

JFEエンジニアリング

JFE商事



エンジニアリング事業

商社事業

「八幡平地熱ゼロエミプラン」 電力提供開始

2020年5月28日 リリース

再生可能エネルギー比率 100%
CO2排出係数ゼロ
⇒ 地熱エネルギーの有効活用に貢献

松尾八幡平地熱発電所

電気

八幡平地熱
ゼロエミプラン



電気

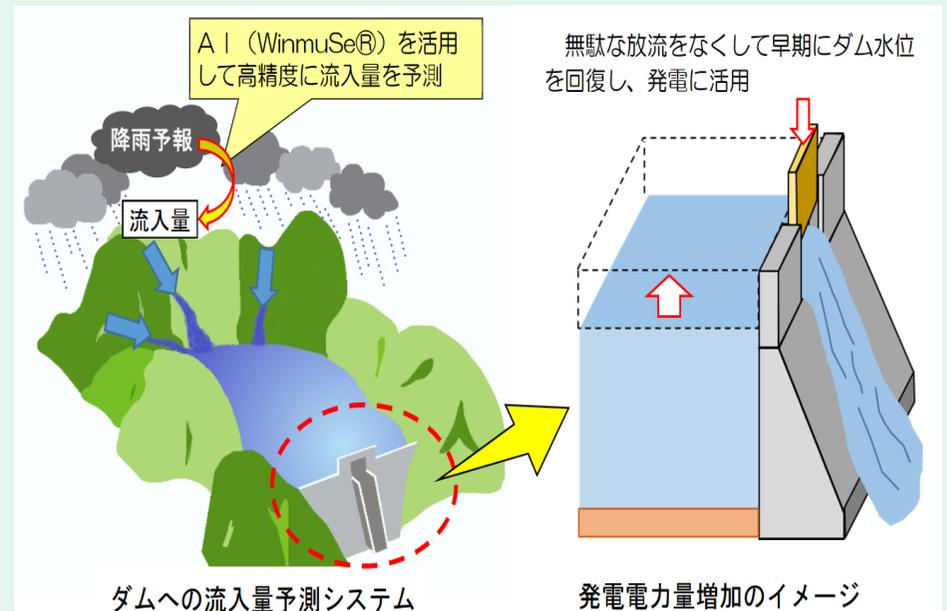
国が発行する
非化石証書
(CO2フリー電力
の証明書)

いわて生協協同組合

AIを活用した「ダム最適運用システム」を 北陸電力(株)と共同開発

2020年6月12日 リリース

ダムへの水の流入量を高精度で予測
⇒水力発電電力量の増加に貢献



鉄鋼貿易本部に再生可能エネルギー鋼材貿易チームを7月に発足

2020年7月10日 リリース

国内外の再生可能エネルギー分野の鋼材ビジネス最大化に向けた戦略を遂行

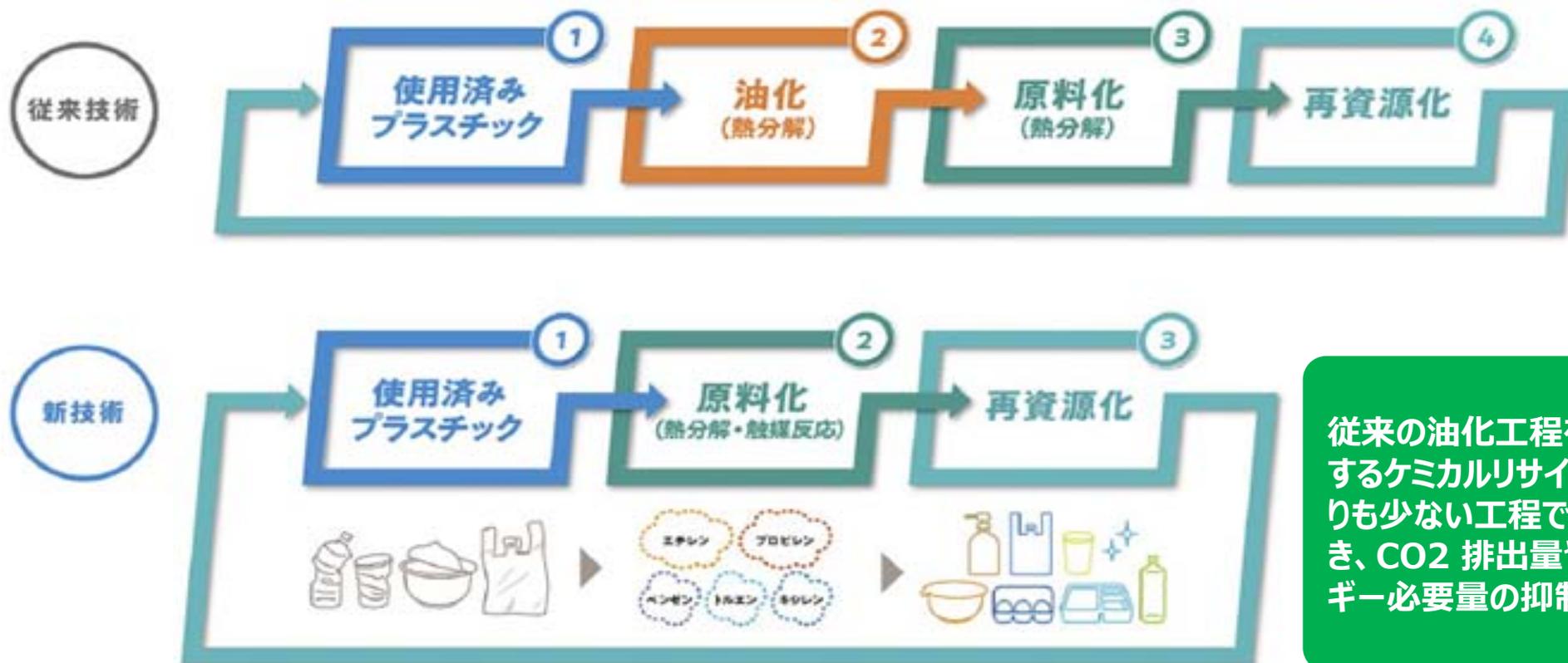
・再エネ分野の鋼材販売の一層の強化 ・お客様のニーズに合わせた鋼材加工のSCM構築の検討



J&T環境が使用済みプラスチックの再資源化事業 アールプラスジャパン に参画

2020年6月30日 リリース

- ◆ 業界を超えた12社による共同出資で設立（6月から事業を開始）
- ◆ 米アネロテック社の技術を活用し環境負荷の少ない効率的な再資源化技術開発を推進（2027年の実用化を目指す）



従来の油化工程を經由するケミカルリサイクルよりも少ない工程で処理でき、CO₂ 排出量やエネルギー必要量の抑制

參考資料



主な財務関連データ

JFE
【日本基準】

【IFRS】

見通し

年度	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	年度	'18	'19	'20上
【主要財務指標】(億円、%、倍)								【主要財務指標】(億円、%、倍)			
経常利益	522	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211	事業利益	2,320	378	▲1,250
EBITDA ※1	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059	EBITDA ※1	4,282	2,694	▲100
ROS ※2	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%	ROS ※2	6.0%	1.0%	▲8.6%
ROE ※3	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%	ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲13.9%
ROA ※4	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%	ROA ※4	5.0%	0.8%	▲5.4%
借入金・社債等残高(期末)	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499	有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	19,500
Debt/EBITDA倍率 ※5	6.1倍	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍	Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	-
D/Eレシオ ※6	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%	D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	110.3%
【1株当たり情報】(円/株、%)								【1株当たり情報】(円/株、%)			
親会社株主に帰属する当期純利益	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0	親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲191
配当金	20	40	60	30	30	80	95	配当金	95	20	0
配当性向	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%	配当性向	33.5%	-	-

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

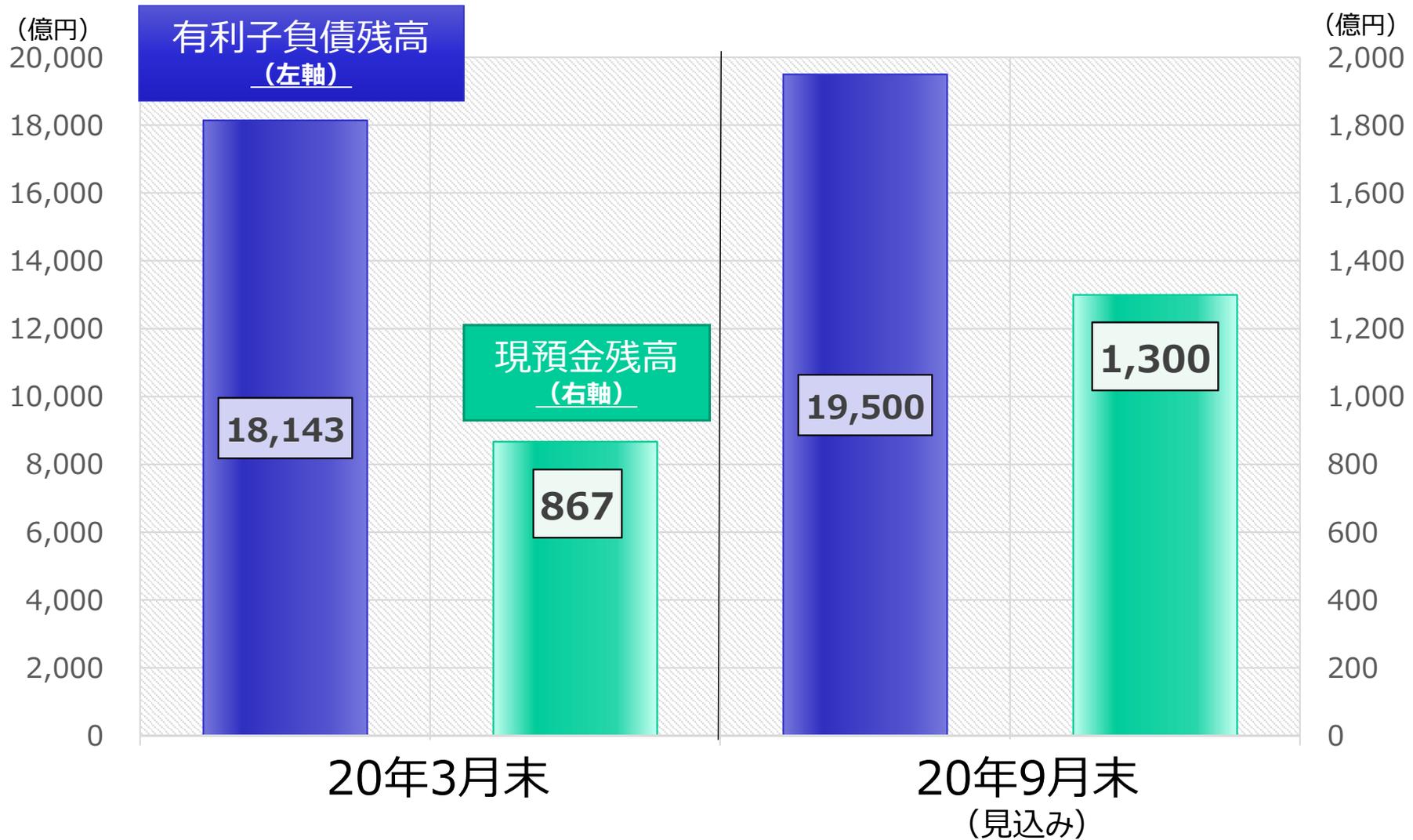
※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入



有利子負債残高の推移



流動性補完のためのコミットメントライン（7,000億円）は未使用

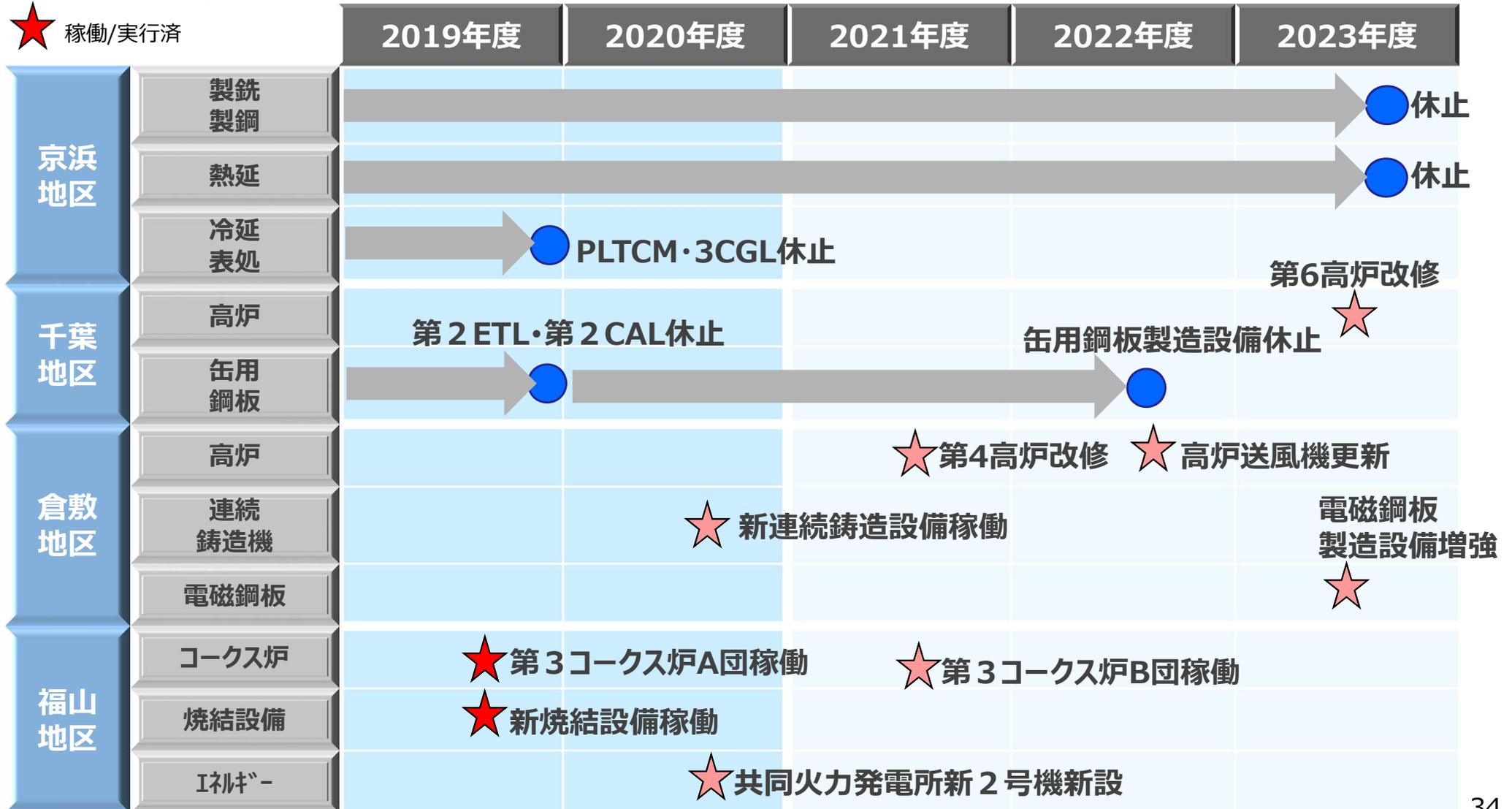


鉄鋼事業の国内の操業方針 (構造改革、製造実力強靱化施策)

JFE

引き続き計画的に投資を実行し、製鉄所・製造所の**一層の競争力強化**を図る

● 休止済/予定 ★ 稼働/実行予定
 ★ 稼働/実行済





鉄鋼事業の海外事業の取り組み状況

JFE

新たな収益基盤の拡大に向けた取り組みを推進

● 実行済み ◆ 実行予定（推進中）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総括			● 「海外事業推進センター」設置			
自動車		● [中国・鉄粉]BJCMX 営業生産開始				
		● [中国・特殊鋼棒線]BJSS 合併契約調印				
インフラ 建材		● [メキシコ・自動車用鋼板]NJSM 生産開始				
		◆ [中国・電池材料]負極材事業 生産開始予定				
インフラ 建材		● カラー鋼板操業				
インフラ 建材						
インフラ 建材	JMM工場外観 (ティラワ工業団地内)	● [UAE・大径溶接鋼管]AGPC 営業生産開始				
海外鉄源他	● [バトナム] FHS第2高炉火入れ					
海外鉄源他		● [豪州・原料炭]バイヤウエン・コール出荷開始				
海外鉄源他			◆ [印] JSWドルビ製鉄所拡張完工			

● 既存の海外事業の収益最大化
● 成長機会を的確に捉えて新規の海外事業を推進

海外事業展開と技術供与を一体で検討する

● BJCMX : 上海宝武杰富意清潔鉄粉有限公司
● JMM : JFE MERANTI MYANMAR Co., Ltd.

● BJSS : 宝武特鋼傑富意有限公司
● NJSM : NUCOR-JFE STEEL MEXICO

● AGPC: AL GHARBIA PIPE COMPANY



JFE

(参考) 2020年度4-6月⇒7-9月

JFEスチール

セグメント利益 ▲294億円内訳

JFEスチール	2020年度 見通し			増減 4-6月→7-9月
	4-6月実績	7-9月見通し	上期見通し	
セグメント利益	▲578	▲872	▲1,450	▲294

1. コスト	+150	<ul style="list-style-type: none"> 補修費・労務費を中心とした固定費削減 設備投資効果発現 ・減産コストアップの抑制 等
2. 数量・構成	+20	4-6月をボトムに粗鋼量は回復するも、出荷品種構成が悪化。 (粗鋼量 479⇒521万t +42万t)
3. 販価・原料	▲170	(≒鋼材トンあたり：▲3,700円) 原料炭価格は下落するものの、国内外市況悪化により スプレッド縮小
4. 棚卸資産評価差等	▲170	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差▲130 (▲210→▲340) 原料キャリーオーバー影響▲60 (±0→▲60) 為替換算差+20(▲20→±0)
5. その他	▲124	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の悪化 棚卸資産在庫削減・廃却促進 等

(参考) 2019年度上期 ⇒ 2020年度上期

セグメント利益 ▲1,627億円内訳

(億円)

JFEスチール	2019年度 上期実績	2020年度 上期見通し	増減 2019上→2020上
セグメント利益	177	▲1,450	▲1,627

1. コスト

+460

- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
- ・ 設備投資効果 ・ 等

2. 数量・構成

▲880

- ・ 需要低下に伴う数量減
(粗鋼量 1,379⇒1,000万t ▲379万t)
- ・ 品種構成の悪化

3. 販価・原料

▲90

- (≒鋼材トンあたり：▲1,000円)
- 輸出スプレッド悪化

4. 棚卸資産評価差等

▲590

- ・ 棚卸資産評価差▲490 (▲60→▲550)
- ・ 原料キャリーオーバー影響▲110 (+50→▲60)
- ・ 為替換算差+10(▲30→▲20)

5. その他

▲527

- ・ 国内外グループ会社収益の悪化
- ・ 資産廃売却の増加 等

(参考) 2019年度下期 ⇒ 2020年度上期

セグメント利益 ▲1,186億円内訳

(億円)

JFEスチール	2019年度 下期実績	2020年度 上期見通し	増減 2019下→2020上
セグメント利益	▲264	▲1,450	▲1,186

1. コスト

+400

- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
- ・ 設備投資効果 ・減産コストアップの抑制 等

2. 数量・構成

▲720

- ・ 需要低下に伴う数量減
(粗鋼量 1,294⇒1,000万t ▲294万t)
- ・ 品種構成悪化

3. 販価・原料

▲100

- (≒鋼材トンあたり：▲1,100円)
- 輸出市況悪化に伴い、スプレッド縮小。

4. 棚卸資産評価差等

▲370

- ・ 棚卸資産評価差▲390 (▲160→▲550)
- ・ 原料キャリーオーバー影響+60 (▲120→▲60)
- ・ 為替換算差▲40(+20→▲20)

5. その他

▲396

- ・ 国内外グループ会社収益の悪化 等

セグメント利益 ▲377億円内訳

JFEスチール	2019年度					2020年度 4-6月	(億円) 増減 1-3月→4-6月
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間		
セグメント利益	145	32	▲63	▲201	▲87	▲578	▲377

1. コスト

+90

- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
- ・ 設備投資効果 等

2. 数量・構成

▲390

- ・ 需要低下に伴う数量減
(粗鋼量 670⇒479万t ▲191万t)

3. 販価・原料

+10

- (≒鋼材トンあたり：+200円)
- 原料炭価格下落等によりスプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

▲120

- ・ 棚卸資産評価差▲160 (▲50→▲210)
- ・ 原料キャリアオーバー影響+60 (▲60→±0)
- ・ 為替換算差▲20(±0→▲20)

5. その他

+33

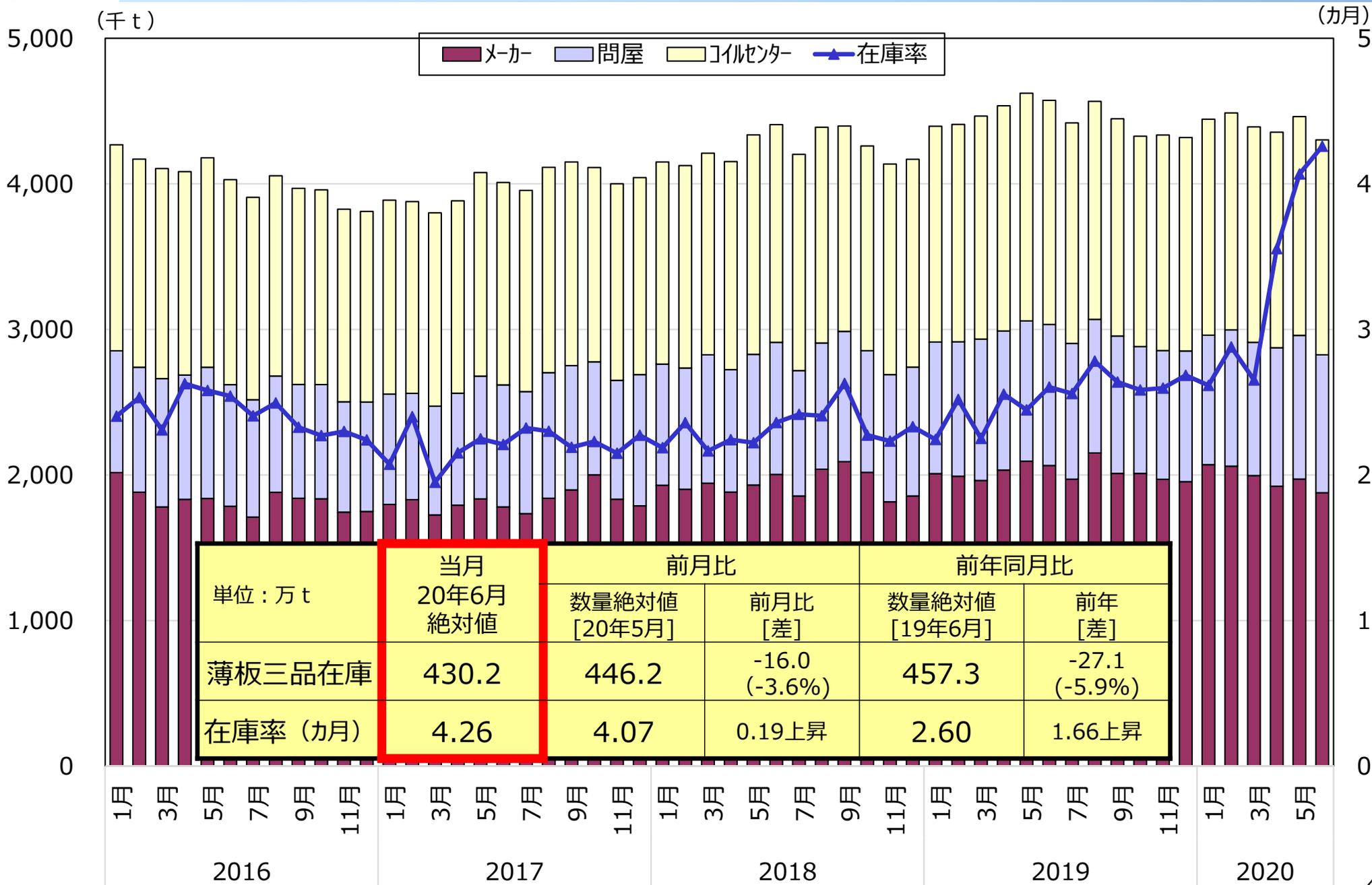
- ・ 国内外グループ会社収益の悪化
- ・ 資産廃売却時期差 等



国内販売環境

薄板 3 品在庫

JFE

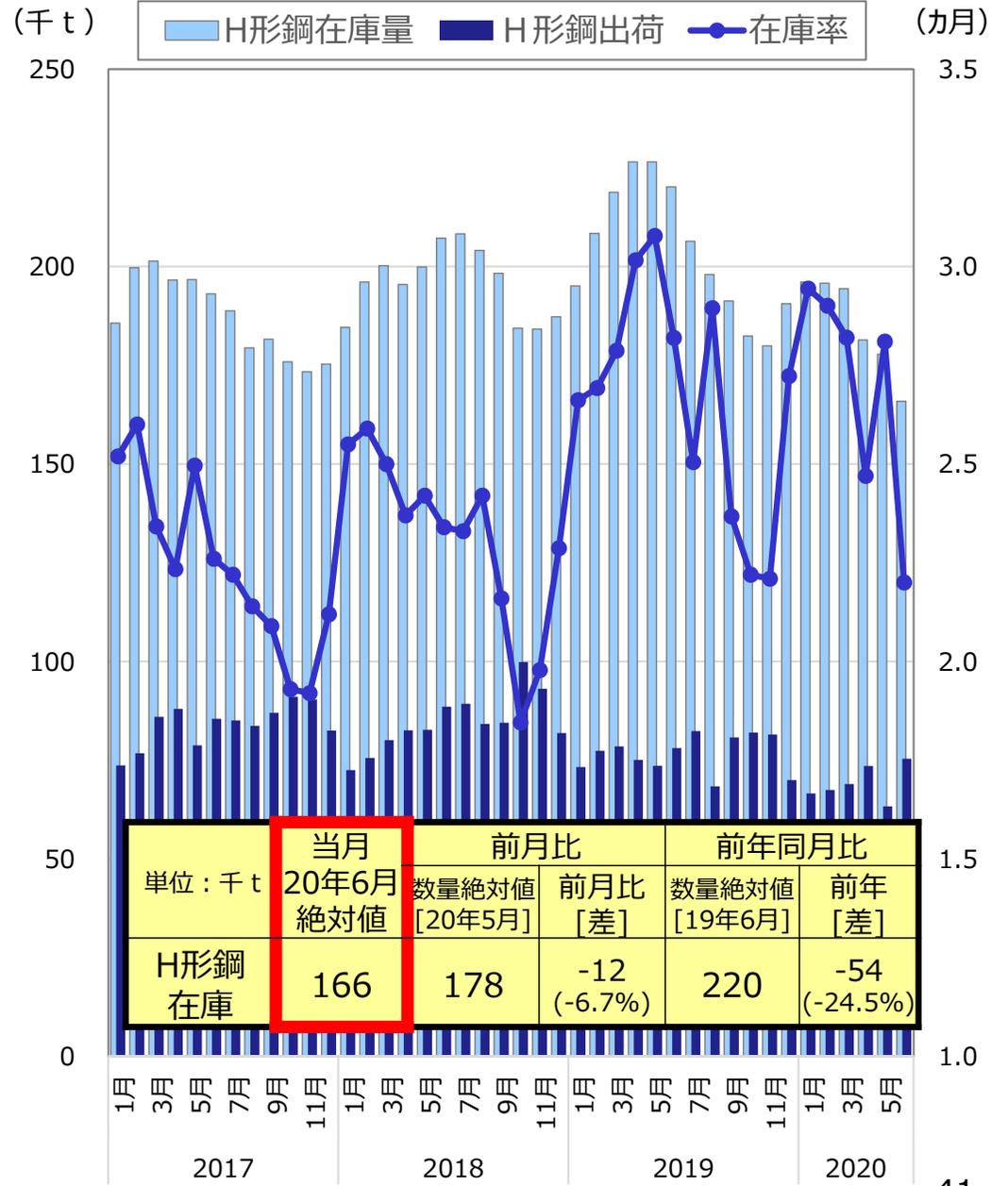
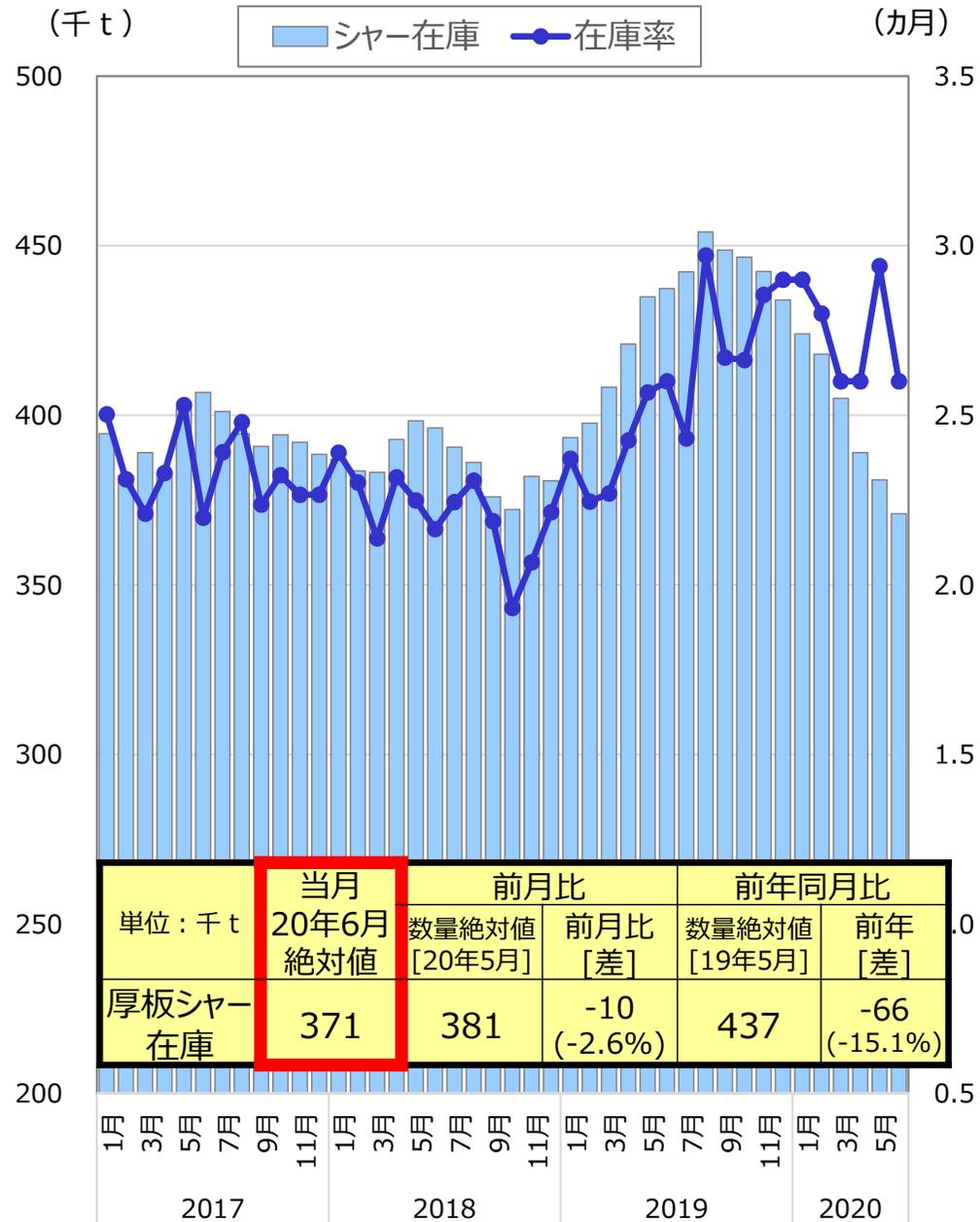




国内販売環境

厚板シャー・H形鋼在庫

JFE



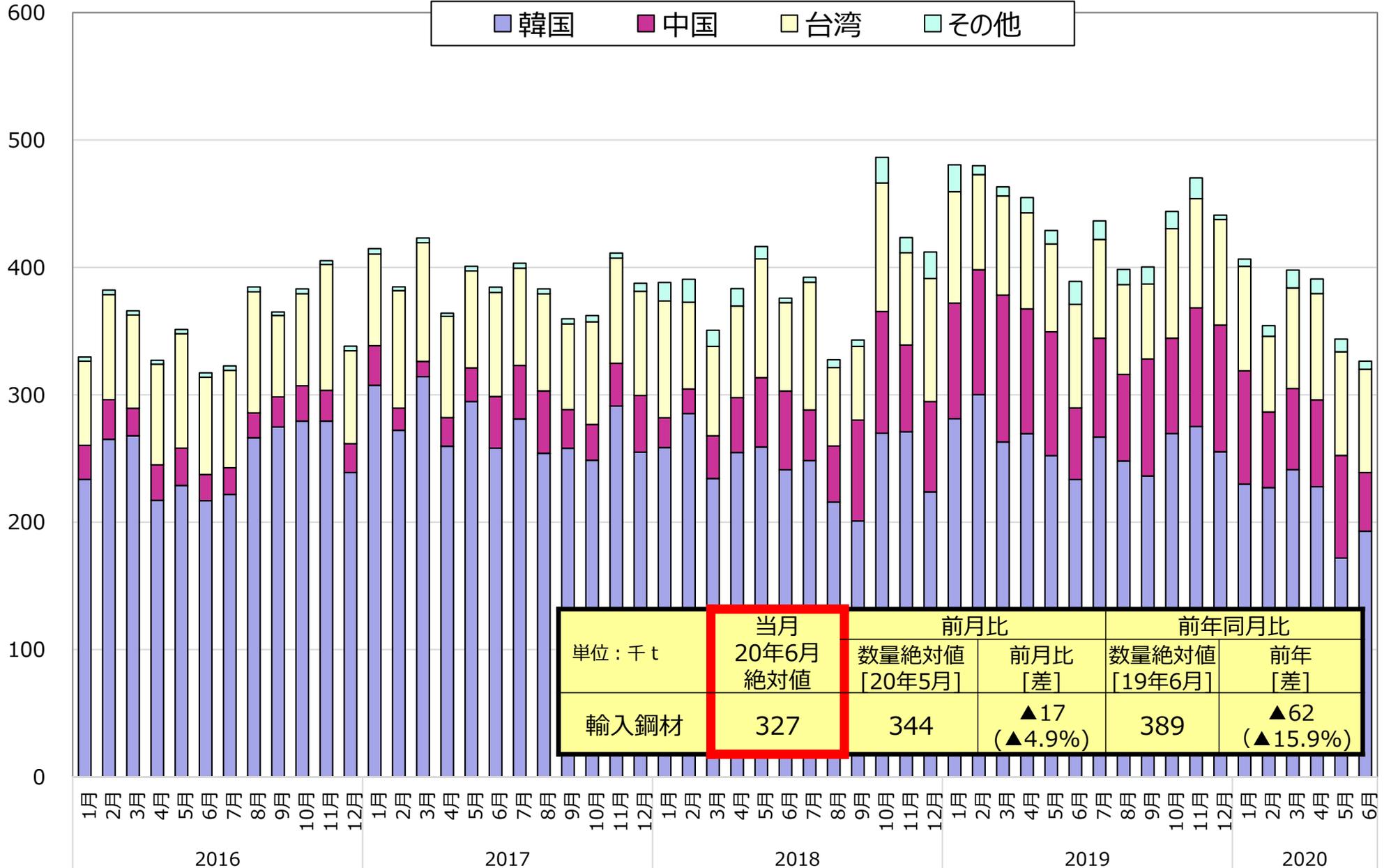


国内販売環境

輸入鋼材（普通鋼/国別）

JFE

(千 t)





海外販売環境

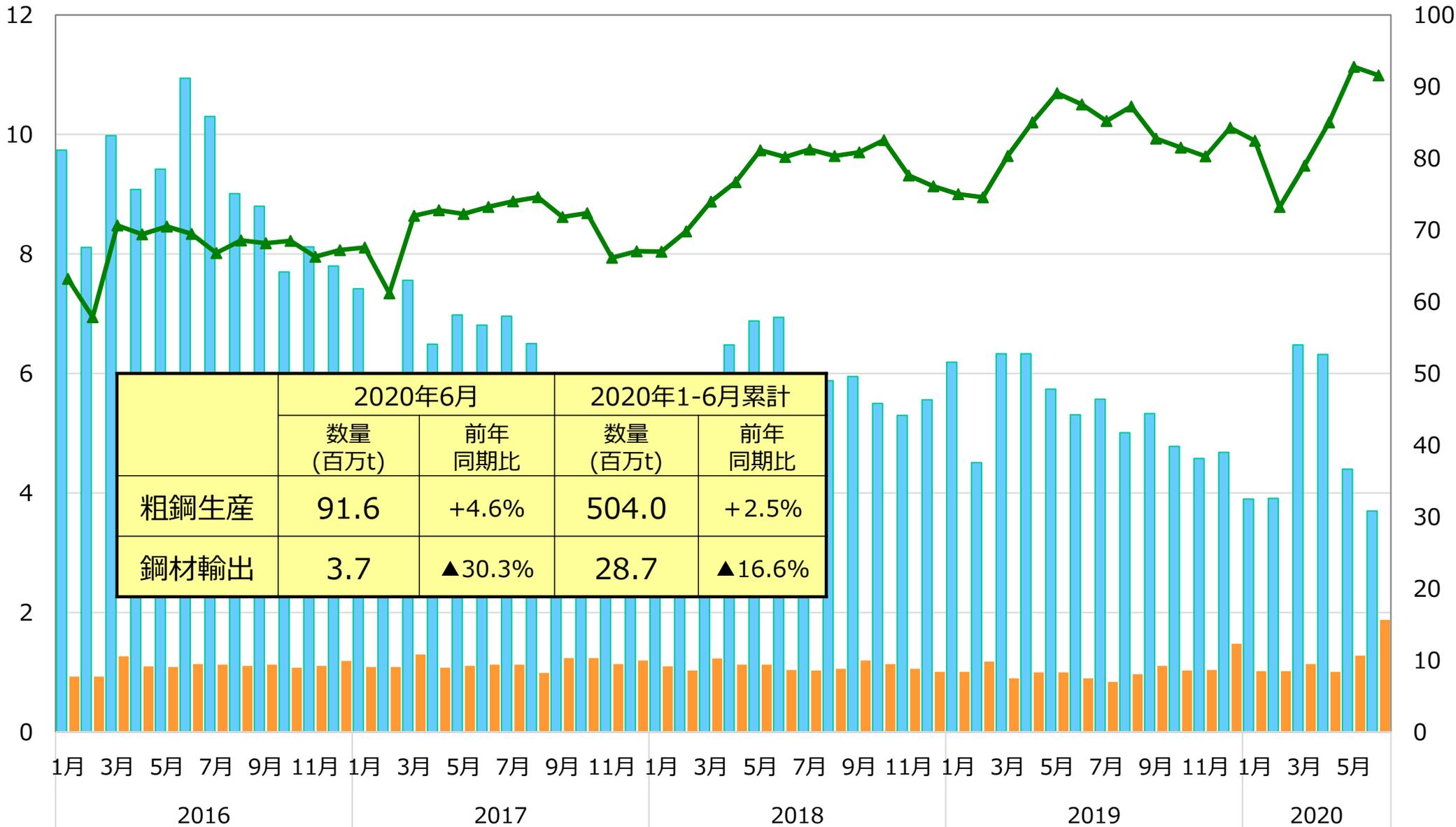
中国粗鋼生産・輸出入

JFE

(百万 t)

■ 輸出 (左軸)
 ■ 輸入 (左軸)
 ▲ 粗鋼生産 (右軸)

(百万 t)



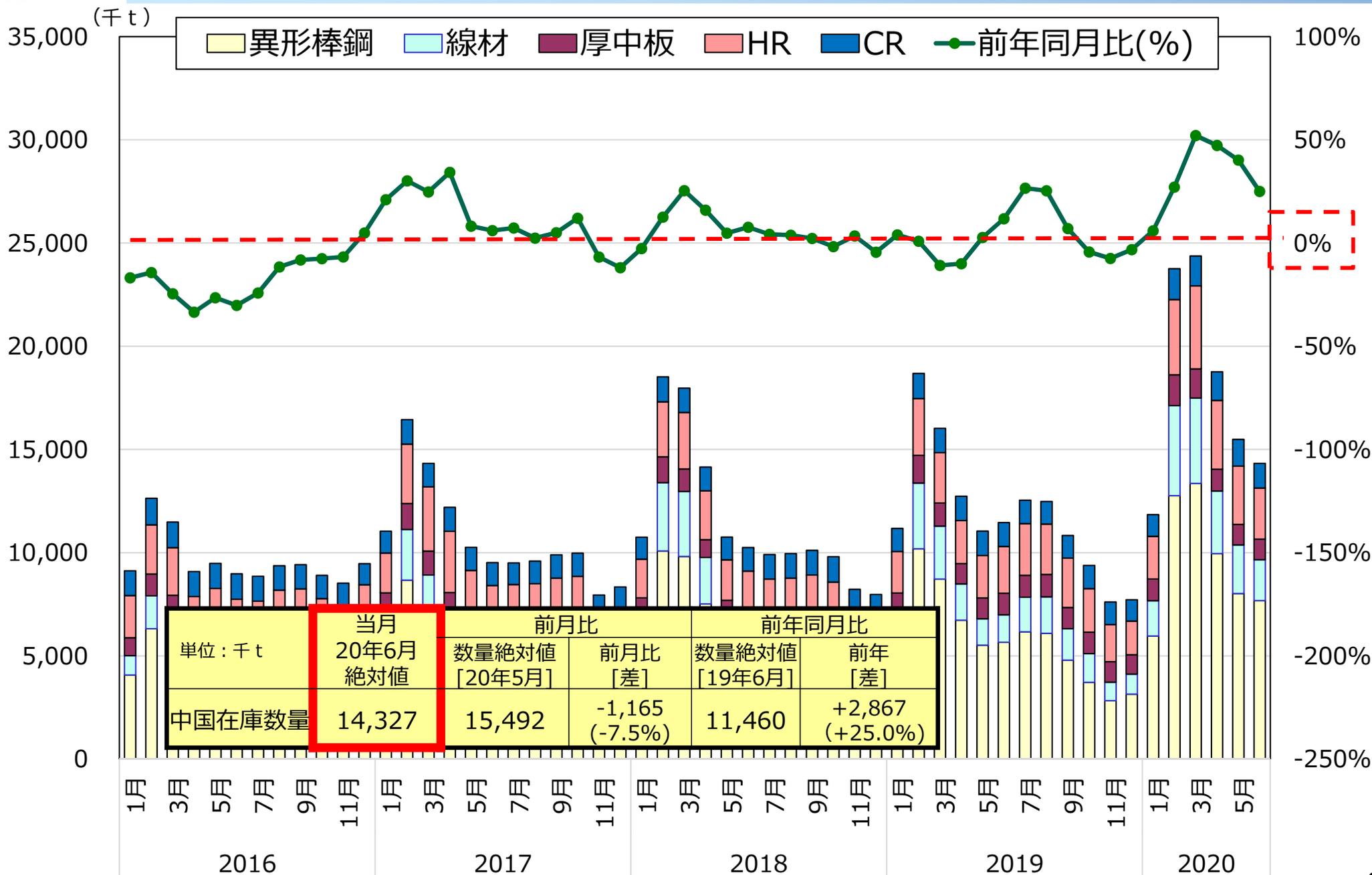
1,2月粗鋼生産量はWSA推定



海外販売環境

中国品種別在庫数量

JFE



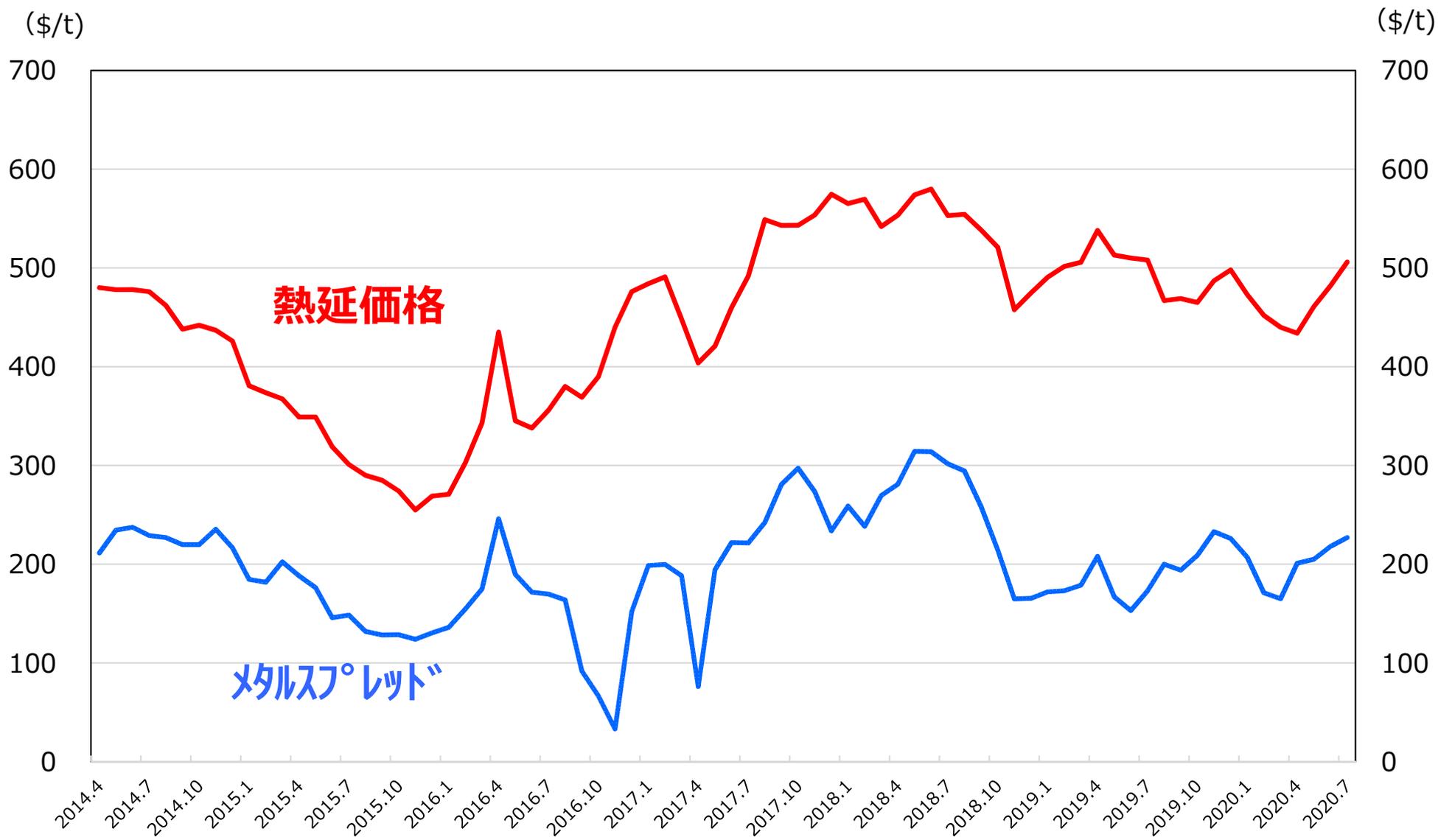


JFE

海外販売環境

(中国スポットベース) メタルスプレッド

JFEスチール



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

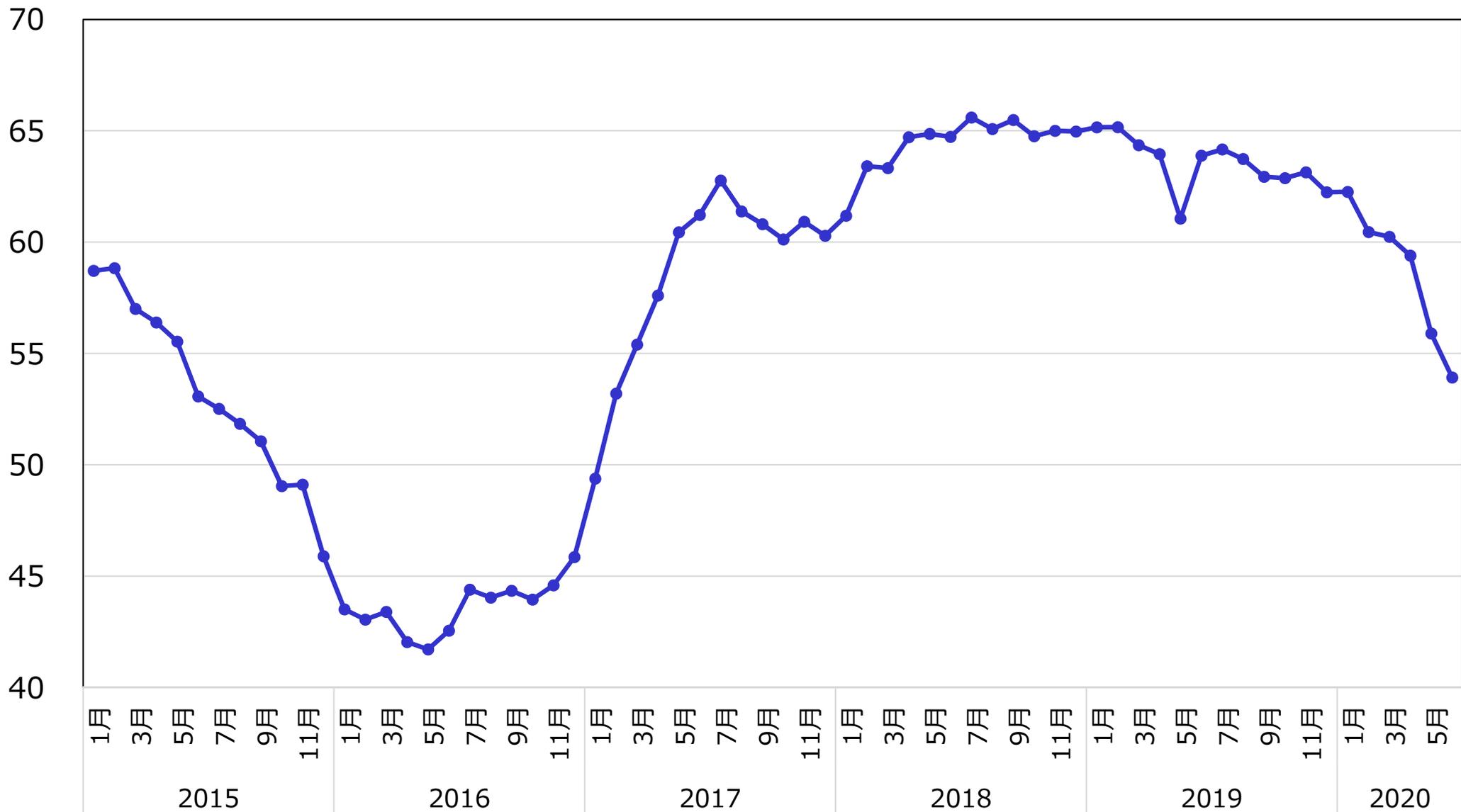


国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)



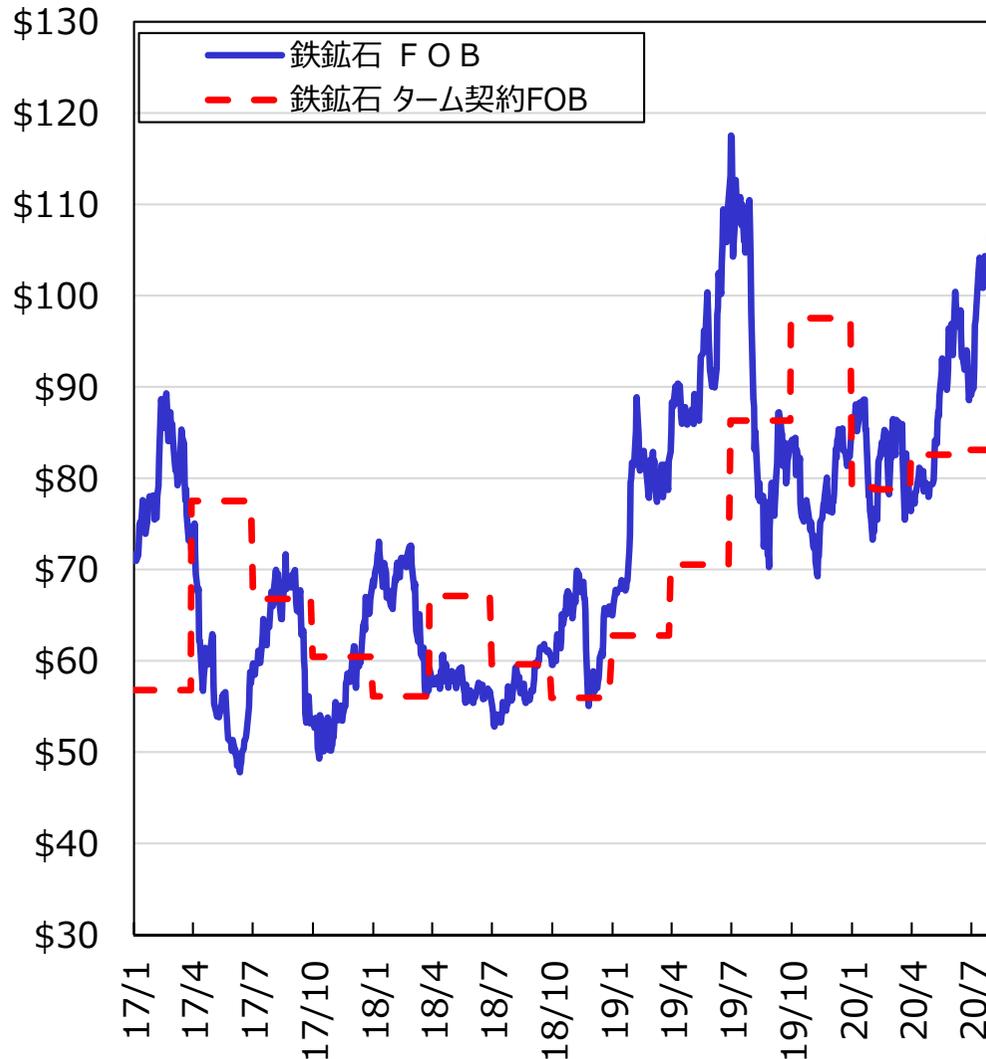
原料

主原料市況

JFE

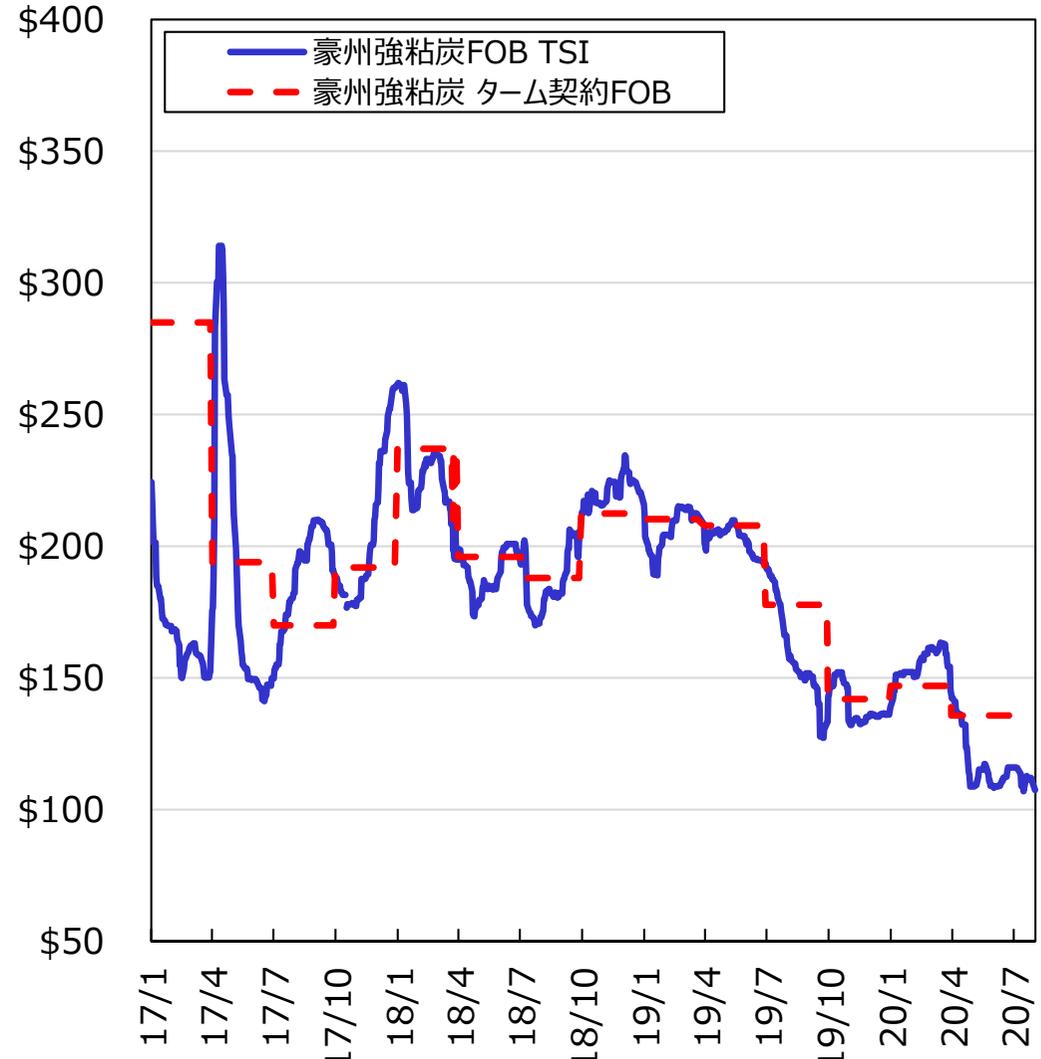
鉄鉱石 (豪州粉鉱)

(\$/DMT)



原料炭 (豪州強粘炭)

(\$/WMT)



原料炭の17年4-6月期以降ターム契約FOBは、インデックス平均を記載
 (4-6月期：3-5月平均、7-9月期：6-8月平均、
 10-12月期：9-11月平均、1-3月期：12-2月平均)



原料

金属市況推移

JFE

(¢/lb) フェロクロム



(U\$/t) 亜鉛



(U\$/t) フェロマンガン



(U\$/lb) モリブデン

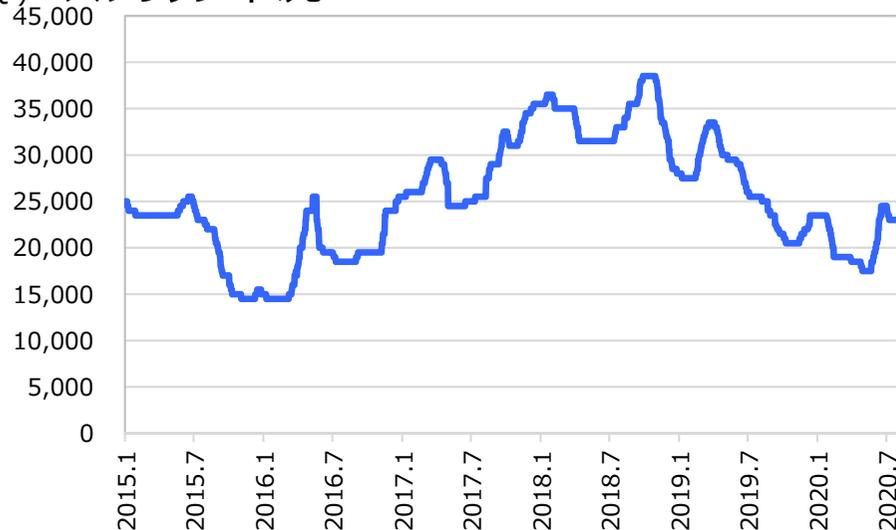




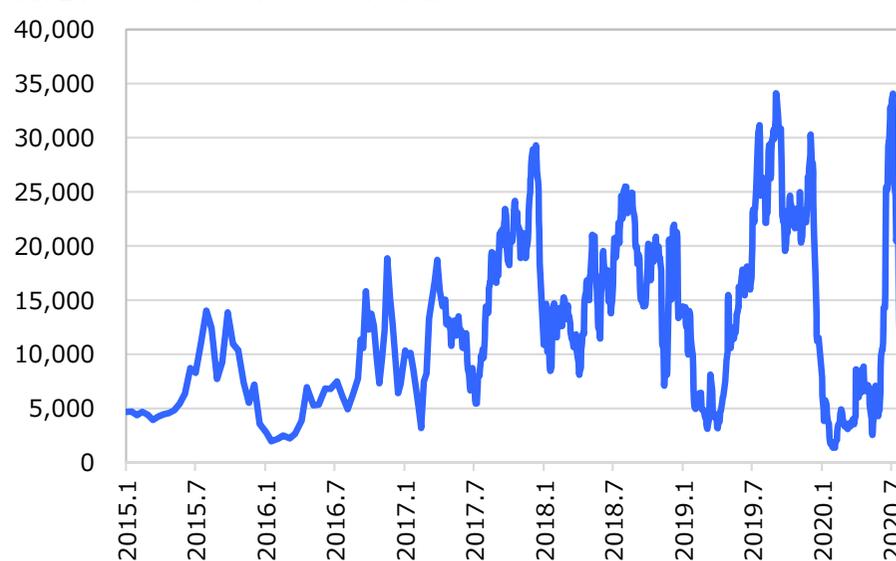
原料

その他市況推移

(円/t) スクラップ市況



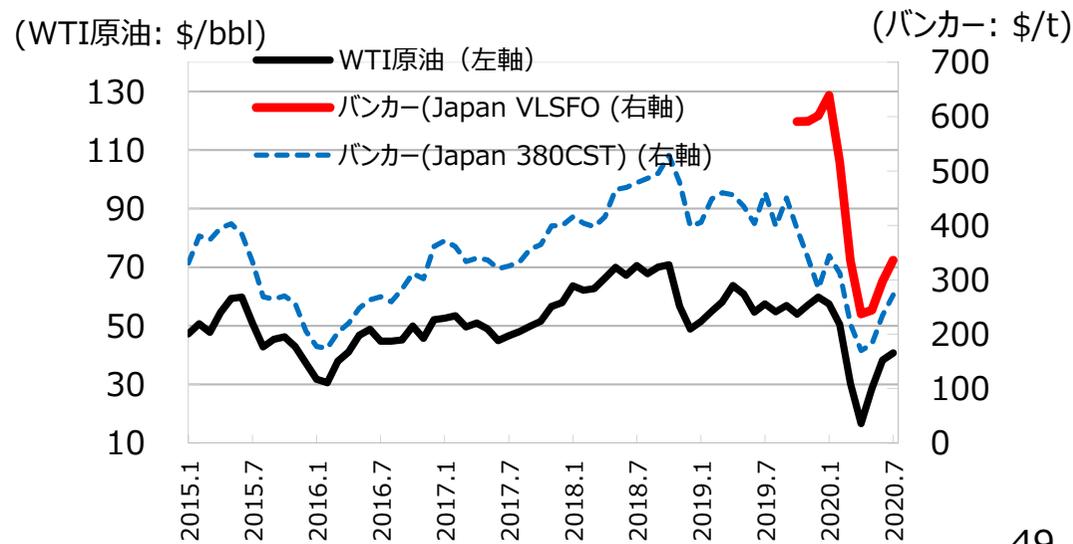
(\$/B) スポット備船市況



(円/t) LNG市況



原油・バンカー市況





JFEエンジニアリング 受注内容

JFE

(億円)

分野	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減	2020年度第1四半期 主な受注内容
環境	1,871	2,600	729	国内廃棄物処理施設 新設工事[福井] 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[広島] 燕市・弥彦村浄水場整備事業[新潟]
エネルギー	1,098	1,200	102	BOG処理対策関連設備工事（堺[大阪]）
社会 インフラ他	1,161	1,200	39	国内橋梁改築工事（1号清水立体八坂高架橋[静岡]）
合計	4,130	5,000	870	



2019年度発行資料 リンク集

資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2019 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html	
CSR報告書 2019	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr_2019_j_20191210.pdf	
CSR報告書 2019 環境データ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/jfe_data_2019_j_20191209.pdf	
ITレポート 2019	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/itreport/index.html	



JFE

Copyright © 2020 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい